

第2章 平成15年度道路事業の概要

1. 平成15年度の道路事業の基本方針

平成15年度は、事業費約875億円（地方単独事業費を除く）により、

- 政策テーマ
- ・連携を強化し、交流を促進する道づくり
 - ・都市部の交通渋滞を緩和する道づくり
 - ・観光を支援し、環境を保全・創造する道づくり
 - ・安全で安心な暮らしを実現する道づくり
 - ・ゆとりある個性豊かな地域を創出する道づくり

を目指した道路整備を推進する。

<事業費>

一般国道（国管理）	39,828	百万円
一般国道（県管理）	9,560	百万円
県道	24,577	百万円
市町村道	13,516	百万円
合計	87,481	百万円

2. 政策テーマごとの指標の体系

平成15年度の道路事業の執行にあたっては、前述の6つの政策テーマのもとに、関連施策の特性に応じ、

生活実感にあった分かり易い指標（最終アウトカム指標）

政策テーマの実現に向けた施策の進捗を表わす指標（中間アウトカム指標）

そのための事業の量を表わす指標（アウトプット指標）

のそれぞれを設定した。

指標の設定にあたっては、

客観的なデータを、少なくとも毎年度収集する体制が整っていること

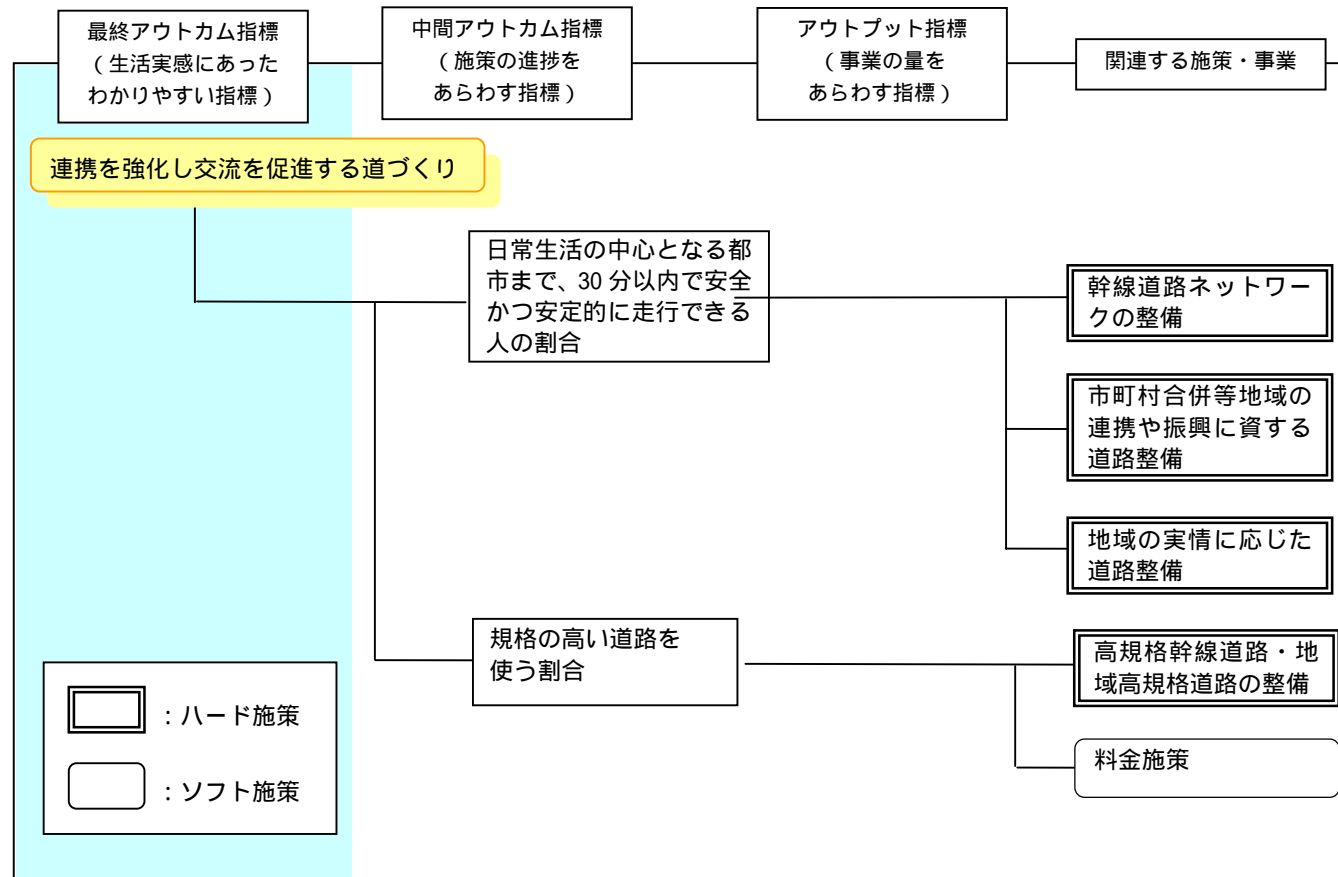
政策テーマを体現し、指標値の向上に対する道路事業による寄与が明らかであること

等の条件を考慮している。

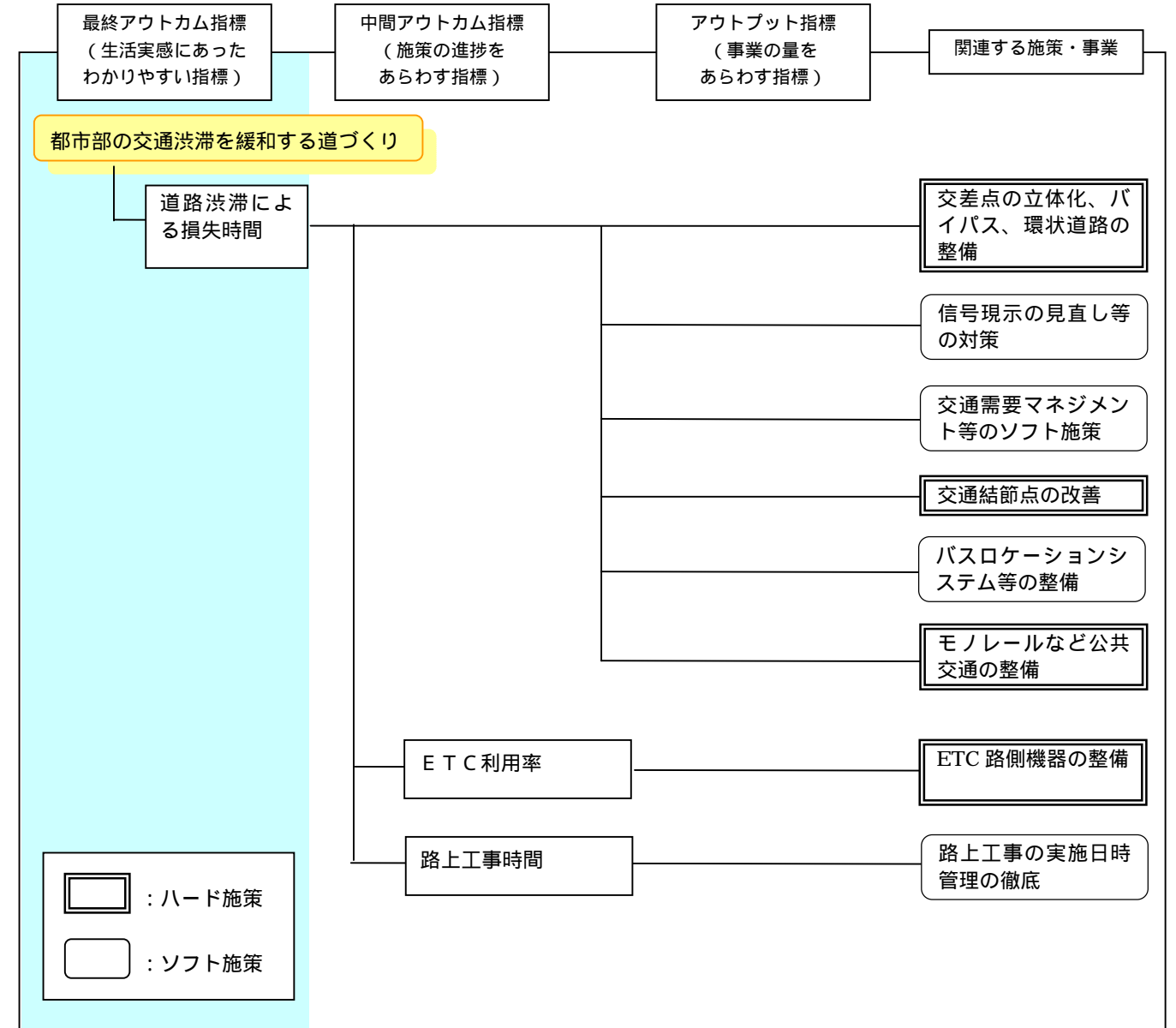
これらの体系を、政策テーマ毎に整理したものについて、次頁以降に掲載する。

なお、これらの政策テーマ及び指標は、平成15年度の道路行政の実施にあたり設定した、現時点のものであり、今後の検討や県民ニーズを踏まえ、変更することがあるものである。

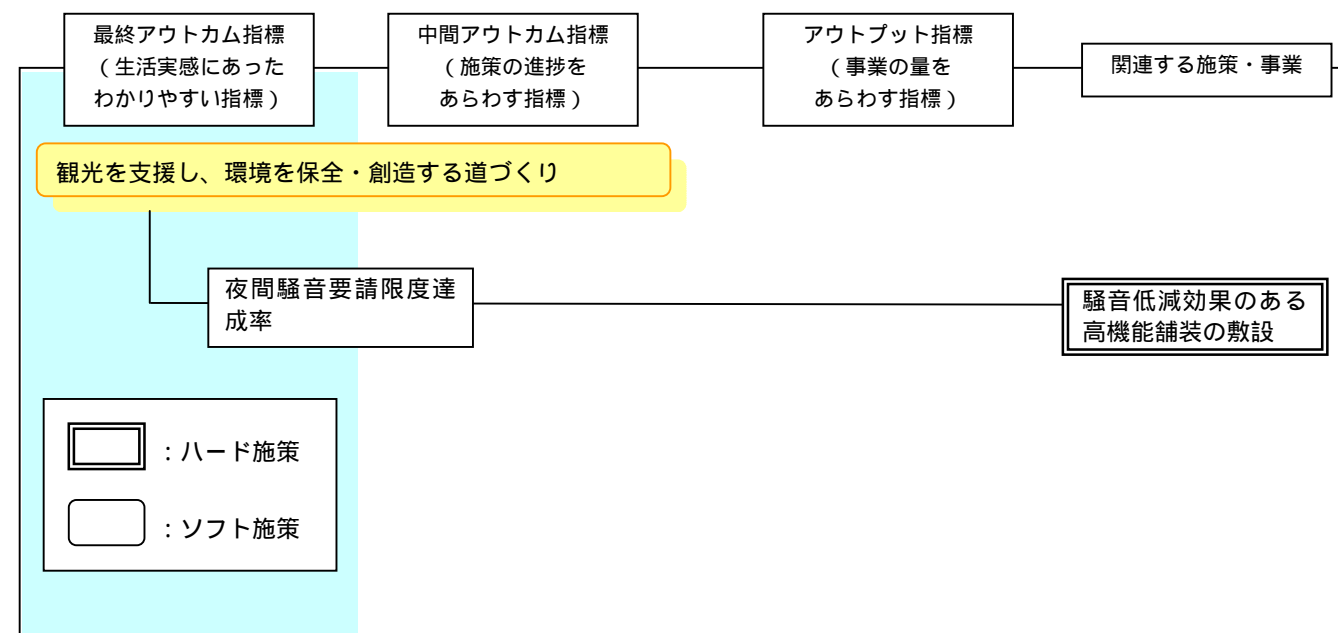
連携を強化し、交流を促進する道づくり



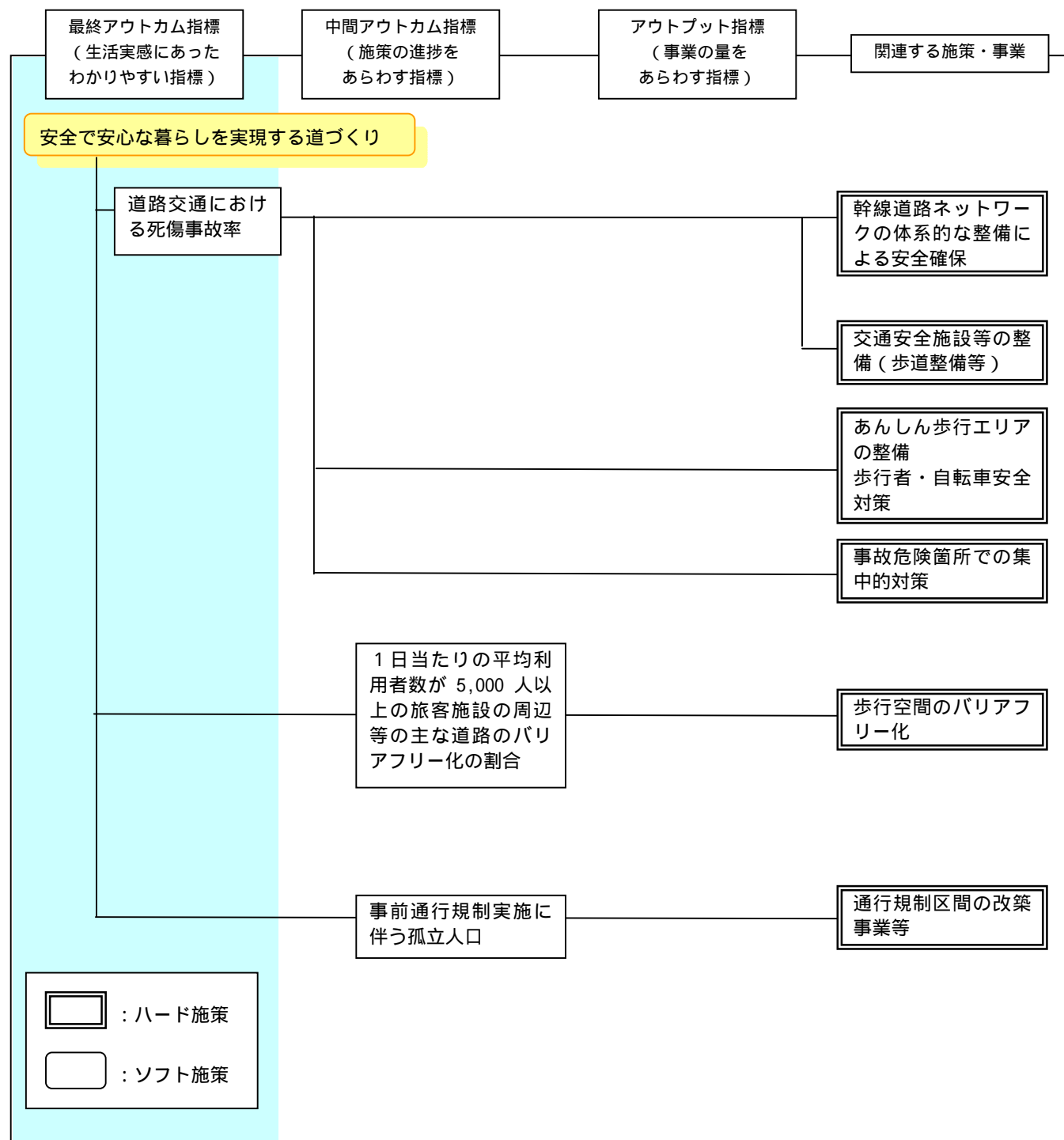
都市部の交通渋滞を緩和する道づくり



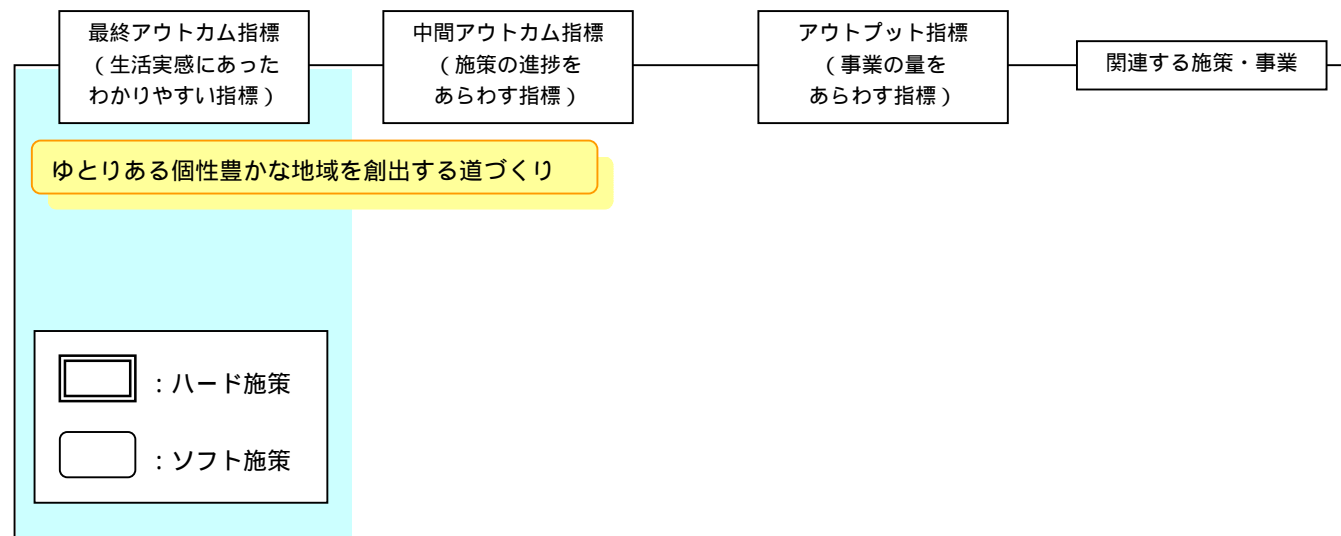
観光を支援し、環境を保全・創造する道づくり



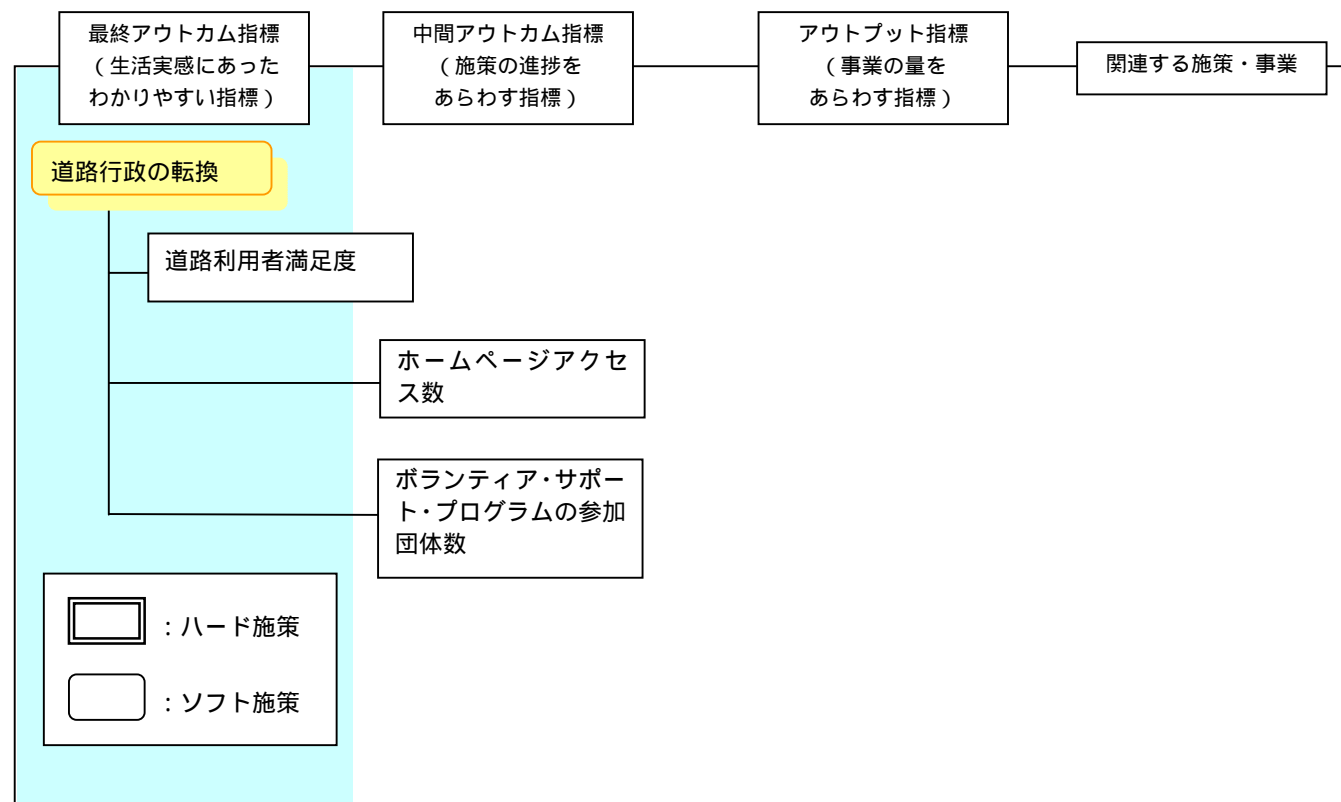
安全で安心な暮らしを実現する道づくり



ゆとりある個性豊かな地域を創出する道づくり



道路行政の転換



各指標の説明

政策テーマ	指標名	指標の内容	指標の示す目標
連携を強化し、交流を促進する道づくり	日常生活の中心となる都市まで、30分以内で安全かつ安定的に走行できる人の割合	日常生活の中心となる都市（那覇市、沖縄市、名護市）まで改良された道路を利用して、30分以内に安全かつ快適に移動できる人の割合を表す。	平成14年度の64%（約76万人）を平成19年度までに78%（約93万人）とすることを中期的な目標とする。平成15年度は67%（約80万人）とすることを目標とする。これは、日常生活の中心となる都市まで30分以内で移動できるものの安全かつ快適に到達できない約31万人のうち、快適に到達できる人が5カ年間で約17万人、平成15年度に約4万人増えることを意味する。
	規格の高い道路を使う割合	自動車専用道路を利用する交通の割合（規格の高い道路を使う割合）を表す指標であり、具体的には、全道路の走行台キロに占める自動車専用道路の走行台キロの割合を表す。	平成14年度の6%を平成19年度までに7%とすることを中期的な目標とする。1%増加により、死傷事故数が約30件/年減少し、CO ₂ 排出量も約1,000トン/年削減されると試算される。平成15年度は、1日あたり合計約1,559万台キロ/日（県道以上（H11道路交通センサス））の交通量のうち、新たに約2万台キロ/日の交通の自動車専用道路への転換を図ることを目標とする。
都市部の交通渋滞を緩和する道づくり	道路渋滞による損失時間	県道以上の道路における渋滞が無い場合の所要時間と実際の所要時間の差を表わす。	平成14年度の年間62百万人時間を平成19年度までに約5%削減し、年間59百万人時間とすることを中期的な目標とする。平成15年度は約1%削減し、年間61百万人時間とすることを目標とする。これは、1人あたり約40分時間が有効に使えるようになることを意味する。
	E T C利用率	E T Cが導入されている料金所（那覇I C、西原I C、沖縄南I C、石川I C、宜野座I C、許田I C、西原J C T）において、E T Cを使用して通行した車両の割合を表す。	平成14年度の1%を平成19年度までに大幅に向上させることを中期的な目標とする。平成15年度は現時点における全国平均並みの5%とすることを目標とする。これは、平成14年度1日あたりE T C利用車両約420台が平成15年度に約2,100台に増えることを意味する。
都市部の交通渋滞を緩和する道づくり	路上工事時間	道路上において行われる工事（路上工事）に伴う年間の交通規制時間を道路1kmあたりに換算したものである	平成14年度の1kmあたり年間交通規制時間を、平成19年度までに約2割削減し、路上工事に伴う渋滞の軽減を図ることを中期的な目標とする。そのため、直轄国道の場合、1kmあたり平成14年度に621時間であった年間交通規制時間を平成15年度には約4%削減して年間約590時間とすることを目標とする。
観光を支援し、環境を保全・創造する道づくり	夜間騒音要請限度達成率	住居が連担している幹線道路において、沿道の夜間騒音が要請限度を達成している道路延長の割合を表す。	平成14年度の91%を平成19年度までに94%とすることを中期的な目標とする。平成15年度は92%とすることを目標とする。
安全で安心な暮らしを実現する道づくり	道路交通における死傷事故率	自動車の走行台キロ当たりの死傷事故件数を表す。	平成14年度の1億台キロあたり平均69.8件の死傷事故件数を平成19年度までに約1割削減し、1億台キロあたり約63件とすることを中期的な目標とする。平成15年度は1億台キロあたり約68件とすることを目標とする。
	1日当たりの平均利用者数が5,000人以上の旅客施設周辺等の主な道路のバリアフリー化の割合	交通バリアフリー法に基づく特定旅客施設周辺の特定経路のうち、バリアフリー化された道路の割合を表す。	平成14年度の21%を平成19年度までに76%とすることを中期的な目標とする。平成15年度は30%とすることを目標とする。
	事前通行規制実施に伴う孤立人口	異常気象時の大雨および越波により、他地域への移動ルートが確保されずに孤立する人口を表す。	平成14年度の2,600人を平成19年度までに1,900人とすることを中期的な目標とする。平成15年度は2,100人とすることを目標とする。
ゆとりある個性豊かな地域を創出する道づくり			
道路行政の転換	利用者満足度	インターネットを用いて実施した、道路全般に対する満足度調査結果。	平成14年度の5段階評価「2.7」（H15.6月調査）を平成19年度までに「3.0」とすることを中期的な目標とする。平成15年度は「2.7」とすることを目標とする。
	ホームページアクセス数	沖縄総合事務局が運営している「ホームページ」と「沖縄インフォステーション(情報KIOSK)」及び「携帯電話」のアクセス数の合計を表す。	平成14年度のアクセス数7.6万アクセス/年を、平成19年度までに107万アクセス/年とすることを中期的な目標とする。平成15年度は27万アクセス/年を目標とする。
	ボランティア・サポート・プログラムの参加団体数	「ボランティア・サポート・プログラム」等の制度を活用し、道路の美化清掃を行っている団体数を表す。	平成14年度の17団体から毎年増加させることを目標とする。

3. 指標ごとの目指す目標と主要事業・施策

沖縄県におけるアウトカム目標

政策テーマ	アウトカム項目	アウトカム目標			平成 15 年度の主要事業概要・施策
	項目	現況値	H15 年度	H19 年度	
連携を強化し、交流を促進する道づくり	日常生活の中心となる都市まで、30 分以内で安全かつ安定的に走行できる人の割合	64%	67%	78%	-一般国道 329 号南風原バイパス -一般国道 331 号豊見城道路
	規格の高い道路を使う割合	6%	6%	7%	-那覇空港自動車道（豊見城 IC～那覇空港南（仮称）） -沖縄西海岸道路（那覇西道路） -一般国道 58 号名護東道路 -沖縄自動車道の通行料金の低減に係わる措置の継続
都市部の交通渋滞を緩和する道づくり	道路渋滞による損失時間	62 百万人・時間/年	61 百万人・時間/年	59 百万人・時間/年	-バイパスの整備（沖縄西海岸道路等） -一般国道 58 号伊差川交差点（交差点改良） -高速バス・モノレール社会実験 -バス停の環境整備：上屋設置 2 箇所、ベンチ設置 1 カ所 -那覇 IC から首里駅に向けた右折車線の設置 -バス位置情報提供：当面 1 路線で実施、順次拡大
	E T C 利用率	1%	5%	大幅増	-沖縄道未整備 IC への整備（北中城 IC、沖縄北 IC、屋嘉 IC、金武 IC）
	路上工事時間	621 時間/km・年	590 時間/km・年	約 2 割削減	-道路管理者が行う工事の集約化 -占用企業者別の路上工事実施状況の公表の検討 -道路利用者への情報提供
観光を支援し、環境を保全・創造する道づくり	夜間騒音要請限度達成率	91%	92%	94%	-一般国道 58 号宜野湾市伊佐地区 -一般国道 330 号那覇市安里～古波蔵地区
安全で安心な暮らしを実現する道づくり	道路交通における死傷事故率	69.8 件/億台和	68 件/億台和	63 件/億台和	-那覇空港自動車道（豊見城 IC～那覇空港南（仮称）） -沖縄西海岸道路 -一般国道 329 号石川バイパス（4 車化）
	1 日当たりの平均利用者数が 5,000 人以上の旅客施設周辺等の主な道路のバリアフリー化の割合	21%	30%	76%	-県庁前線外 1 線街路事業
	事前通行規制実施に伴う孤立人口の縮減	2,600 人	2,100 人	1,900 人	-一般国道 58 号宇良拡幅 -一般国道 58 号謝敷拡幅
ゆとりある個性豊かな地域を創出する道づくり					
道路行政の転換	利用者満足度	2.7	2.7	3.0	-グループインタビューの実施
	ホームページアクセス数	4.6 万アクセス/年	27 万アクセス/年	107 万アクセス/年	-ホームページの充実 -利用者のニーズ把握 -携帯電話による情報提供
	ボランティア・サポート・プログラムの参加団体数	17 団体	毎年増加		-PR -表彰